

今回登録される建造物の概要

<宮城野納豆製造所 7件>

宮城野納豆製造所は、近代の科学的納豆製造方法の確立に寄与した三浦二郎の創業による納豆及び納豆菌の製造・販売店です。昭和9年には南小泉から銀杏町に移転して事業を拡大、現在も全国流通の約2割の納豆菌が当所で製造されています。

名称	建築年代
みやぎのなっとうせいぞうしよ 宮城野納豆製造所	昭和9年頃／昭和10年代増築，平成29年改修

特徴

切妻造の作業場と寄棟造2階建の事務所兼居室からなる。作業場は1室の大空間でトラスの小屋組を見せる。昭和初期の町工場の様相を伝える事務所兼工場である。



【写真：仙台市教育委員会提供】

名称	建築年代
みやぎのなつとうせいぞうしよ じゅくせいとう 宮城野納豆製造所 熟成棟	昭和9年頃／昭和20年代増築，平成29年改修
特徴	
<p>製造棟作業場の西側北半に接続して建つ。内部は，敷設したトロッコ軌道に沿って，南に発酵用小室を並べ，北を放冷及び出荷場とする。当所開発の新式発酵室を備えた近代食品工場の基幹施設である。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
みやぎのなつとうせいぞうしよ いしぐらおよ まめごや 宮城野納豆製造所 石蔵及び豆小屋	昭和9年頃／平成23年代・同29年改修
特徴	
<p>製造棟の西側に南面して建つ。大豆貯蔵庫である平屋建の石蔵に，計量作業場である木造の豆小屋が附属する。納豆製造に欠かせない近代食品工場の附属施設。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
みやぎのなつとうせいぞうしよ きゅうけいしつ 宮城野納豆製造所 休憩室	昭和前期
特徴	
<p>製造所作業場の東側に接続して建つ。切妻造^{きりづまづくり}棧瓦葺^{さんがわらぶき}の平屋建で、内部はモルタル土間の1室とする。建築当初の姿をよく残し、近代食品工場の構成を伝えている。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
みやぎのなつとうせいぞうしよ しつ 宮城野納豆製造所 ボイラー室	昭和25年頃／昭和中期増築、平成17年改修
特徴	
<p>休憩室の南側に接続して建つ。切妻造鉄板葺^{てつばんが}の平屋建で、内部は南半に煉瓦造^{れんが}の亜炭式ボイラーを設置し、南面外側に煉瓦煙突、東面外側に便所を設ける。近代食品工場の動力設備の様相を伝える附属施設。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
みやぎのなつとうせいぞうしよ 宮城野納豆製造所 あたんごや 亜炭小屋	昭和25年頃
特徴	
<p>ボイラー室南東方の敷地境に西面して建つ。片流れ屋根鉄板葺の平屋建で、敷地側（正面）は解放，街路側（背面）は搬入口とする。ボイラー室とともに近代食品工場の動力設備の様相を伝えている。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

名称	建築年代
みやぎのなつとうせいぞうしよ 宮城野納豆製造所 しゃこ 車庫	昭和前期
特徴	
<p>敷地南西隅に東面して建つ製品配送専用の車庫。切妻造棧瓦葺の平屋建で、内部はモルタル1室。昭和初期における製品配送手段としての自動車の普及を物語る附属施設である。</p>	
	
【写真：仙台市教育委員会提供】	

<臣屋阿部家住宅 2件>

阿部家は田代島の網元で、屋号を臣屋と称します。島南部の高台に位置する屋敷には、度重なる津波被害や火災を免れた建物が残っています。

名称	建築年代
しんや あべ けじゅうたく しゅおく 臣屋阿部家住宅 主屋	明治14年／昭和25年増築
特徴	
敷地中央に南面して建つ。入母屋造平屋建で、正面に玄関と応接室を突出する。内部は、表側に仏壇と神棚を備えた15畳のおかみ、その西側に座敷を配する。島嶼集落の歴史的景観を形成する建物である。	
	
【写真：石巻市教育委員会提供】	

名称	建築年代
しんや あべ けじゅうたく いんきよや 臣屋阿部家住宅 隠居屋	昭和29年
特徴	
敷地南面の石段脇に西面して建つ入母屋造2階建の建物。2階の座敷は、海を望む出窓と床構えを備え、特徴的な接客空間をつくる。漁家の屋敷構えに近代的な彩りを添える。	
	
【写真：石巻市教育委員会提供】	

<壽丸屋敷 2件>

壽丸屋敷は、旧は味噌醤油等を商った渡邊家の住宅です。現在は、主屋・店蔵等が白石市に寄贈され、さまざまなイベントで活用されています。

名称	建築年代
すまる やしき みせぐら 壽丸屋敷 店蔵	明治後期／平成17年改修

特徴

街路に西面して建つ土蔵造2階建ての建物。内部は、1階を前土間の店舗とし、2階に2室を設ける。重厚かつ均整の取れた外観で、旧城下の街路景観を形成している。



【写真：白石市教育委員会提供】

名称	建築年代
<small>すまる やしき しゅおく</small> 壽丸屋敷 主屋	大正10年頃／昭和39年 増築
特徴	
<p>店蔵の背面に南面して建つ。入母屋造平屋建の正面東端に玄関を出し，東に洋風応接間，西に2列4室を配して，さらに西面に上座敷棟を延ばす。宮城県を代表する近代的な和風住宅の一つである。</p>	
	
	
<p>【写真（上）：白石市教育委員会提供】</p>	

<玉幸 1件>

玉幸は、明治15年頃に開業した料亭で、明治32年の白石市内大火後に現在地に移転しました。戦前の白石にて「過ぎたるもの（過分なもの）」と評された、格式高い近代和風建築です。

名称	建築年代
たまこう 玉幸	明治後期／大正14年改修

特徴

敷地中央に北面して建つ玄関棟の東前方に居住棟を連ね、東背面と西面に接続する東棟と西棟に客間8室を設ける。戦前の白石の賑わいを伝える大規模和風建築。



【写真】：白石市教育委員会提供】